

新入生の皆さん、本日は国際教養大学に御入学、おめでとうございます。私は国際教養大学の学長、鈴木典比古でございます。

今年は、24名の学部生、167名の海外からの留学生、そして9名の大学院生、合計200名の新入生を迎えております。本学は2004年に創設されましたが、その建学の理念は「国際教養大学は「国際教養（International Liberal Arts）」という新しい教学理念を掲げ、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力と豊かな教養、グローバルな視野に伴った専門知識を身に付けた実践力のある人材を養成し、国際社会と地域社会に貢献することを使命とする」ことにあります。そしてその理念に共感する次のような学生を求めています。

1. 学習意欲が強く、鋭い問題意識をもつ学生
2. 国際社会を舞台に活躍できるような実践的な外国語運用能力（特に英語）と、幅広い教養の修得を志す学生
3. 世界の多様な文化、言語、歴史、社会、そして経済や環境などの国際関係について、強い関心と探究心をもつ学生

ここにいる皆さんは、今述べたような人材になる可能性を秘めています。皆さんは難関の入学試験を経て、本日この場にお出でになりました。今日から国際教養大学の学生となられましたことを心から歓迎いたします。

さて、大学教育は現在、大きな曲がり角に立っているとされています。日本の大学が始まってから約150年が経ちますが、この間に行われてきた大学教育の特徴は、専門化された狭い分野を深く掘り下げた教育でありました。その専門分野は日進月歩であり、数年もすると知識が陳腐化していってしまいます。そうすると、大学で得た知識は時代に追いついていけなくなります。大学教育がこのようなものであってはなりません。大学教育によって身につけた力が、時代の流れや変化を超えて普遍的な意味と有効性をもっていなければならないのです。そのような教育とはどのような内容と方向をもったものなのでしょうか。それこそ本学が目指してきた教養教育、しかも国際社会の中で意味をもつ「国際教養教育」、即ち International Liberal Arts と言われるものであります。

本学は英語名が Akita International University、日本語名が「国際教養大学」であります。この英語名と日本語名を二つ重ね合わせると、秋田にある International Liberal Arts 教育を行っている大学ということになります。それで

は International Liberal Arts とはどのような特徴を持っているのでしょうか。この問いに答えるには、international と liberal arts を分けて考える必要があります。まず、liberal arts 教育ですが、liberal arts の語源はラテン語の artes liberales にあります。artes とは英語の art の語源です。すなわち技術、美術、芸術、学芸等、体や手を動かして活動することです。次に liberales とは英語の liberal あるいは liberate の語源であり、自由な、とか、人間を自由にする、という意味です。したがって liberal arts という言葉の語源である artes liberales というラテン語は「自由人のための技芸」、または「人間を自由にするための技芸」という意味を持っています。それでは人間は何から自分を自由にしたいのでしょうか。それは、その人間が持っている価値観や社会通念や偏見や人間関係から自分を一旦解放して自由にするということでもあります。そして同時に、このようにして自由になった自分を新たに創り直すということでもあります。すなわち、「自分がこれまでの自分から自分を解放し、新しい自分を創る」ということが liberal arts の基本原理です。

このような理念を一層高度に実現するための試みの一つとして、本学は 2014 年 9 月に文部科学省が公募した「スーパーグローバル大学創成支援事業」に応募し、109 大学のうち、採用された 37 大学の一つとして、本学が申請したプロジェクトが採択になりました。「日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想」として 4 つの教育環境整備に着手しています。

第一のプロジェクトは「24 時間リベラルアーツ教育の推進」であります。本学の学生のうち 90 パーセントがキャンパスに居住しています。学生諸君は勉学において様々な分野に関心を持ち、将来のキャリアにおいても多様な職業に関心を持っています。それらの諸君が 24 時間の大半を過ごす学生寮において同じテーマに関心を持つ者同士が、切磋琢磨してゆく共同生活の場を作ることでもあります。第二のプロジェクトは「世界標準のカリキュラム」の提供であります。本学の学生には留学までに海外で通用する十分な力をつけさせ、海外から来る留学生には、本学での授業が母校の単位として認定されるだけの十分に高い質のカリキュラムを提供して初めて交換留学が成立するのです。本学の学生諸君に対して提供するカリキュラムは世界に通用する世界標準のものでなければならぬわけです。第三のプロジェクトは「日本の英語教育を改革するモデルを提示する」ことでもあります。本学の学生諸君は英語での授業を受講することに慣れております。このような諸君が日本の小中高校の生徒たちに英語で英語を教える「イングリッシュビレッジ」を開設しています。それと同時に、本学の教員は常に英語で授業を行っ

ていますので、本学の教員達が小中高校の英語の先生たちに英語で英語の授業を行うことを指導する「ティーチャーズセミナー」を実施しています。第四のプロジェクトは「国際ベンチマーキング」であります。これは本学の教育の達成度合いを米国のリベラルアーツ大学と比較して、内容やレベルにおいて同水準のものに向上させていくプロジェクトであります。

我々教職員が皆さんの努力や苦闘を手をこまねいて傍観していることは決していたしません。本学は皆さんが懸命に努力するに値する十分な環境を提供します。それは諸君を成長へと導く熱心な教授陣、それをサポートする職員達、すべての科目を英語で開講し、すべての学生の1年間の海外留学を義務化するという、他大学に類を見ないカリキュラム、24時間・365日開館の図書館、厳しい対話が繰り返される少人数・対話型の授業、1年生が全員共同生活を過ごす異文化全寮制等であります。皆さんはこれらの訓練や体験を経て、必ず脱皮して行きます。さあ、それでは皆さん、これからの4年間で必ず大きな脱皮をして成長すると我々の前で自らに誓ってください。

それでは今から、その第一歩を歩み出しましょう。